

きつと住みたくなるまち播磨町

平成28年3月定例会において、町長が述べた平成28年度施政方針演説の冒頭を掲載します。全文は、町ホームページに掲載しています。

▼問合せ 企画グループ ☎079(435)0356

はじめに

国の経済情勢は、政府の経済成長戦略により、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあつてゆるやかな景気回復の兆しが見え始めてきたところであり、平成28年1月の内閣府月例経済報告では金融資本市場の変動の影響も懸念されており、その成果を見極めるには、もう少し時間を要するのではと思っております。今後の経済情勢の更なる好転が、雇用や個人消費に反映し地域経済にも波及していくことを大いに期待するものでございます。

また、急激な人口減少と少子高齢化という社会全体が直面しているこの大きな課題を克服すべく、国においては、地方創生を最重要

課題に掲げ、人口減少克服と地域の活性化に向けた対策を講じ、将来にわたって活力ある日本社会を維持するため、地方財政計画に「まち・ひと・しごと創生事業」を盛り込むなど、地方が自主的・主体的に地方創生に取り組めるよう支援するとされています。

本町においても昨年10月に「播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生における子育て支援対策など重点的な取組を進めることとしたところであります。

本町の平成28年度当初予算について、歳入においては、その根幹となります町税で前年度より5.8%増の54億1千万円を見込んでおりますが、老朽化した公共施設等の大規模な改修が今後見込まれることから、その財源確保策と

して町債の発行を前年度より68・9%増の9億3千万円を見込んでおります。

歳出においては、少子・高齢化対策をはじめとした社会保障関係費は年々増加しており、生活環境の整備、安全・安心なまちづくりへの対応など、経常的な経費の増加に加え、老朽化した学校施設等の大規模な改修工事の実施など、多額の経費を必要とする事業が多く予定されております。

このような状況の中で、平成28年度の予算編成にあたっては、中間年度として基本計画の見直しを行った「第4次播磨町総合計画」をはじめ、「第4次播磨町行政改革大綱」及びこれに基づく具体的取組を示した「行政改革実施計画」を推進し、制度・施策の優先順位の選択を行いました。また、



喫緊の課題である事業には重点的・積極的に取り組む予算を編成してまいりました。それでは、「平成28年度施政方針」にあたり、「第4次播磨町総合計画」の5本の柱に沿って所信を述べさせていただきます。

豊かな心と人を育むまちづくりを進めてまいります

昨年から開催しております「播磨町総合教育会議」で「教育大綱」を策定したところでございますが、それを指針として策定されました「第2期播磨町教育振興基本計画」に則り、子どもたちの学びの場の充実と環境改善に努めてまいります。また、これまで町単独で全小学校に配置してまいりました「教科専門指導教諭」並びに全校配置してまいりました「スクールアシスタント」をさらに効果的なものとするよう「サポートチーム播磨」を立ち上げ、地域ボランティアの方々のご支援をいただきながら、新たな形で学校現場の運営を総合的にサポートしてまいります。同時に教員の教える技術の伝承や向上を目的として、教育委員会による研究指定を行ってまいります。

播磨町では小・中学校で給食

やすらぎがあり、健やかに暮らせるまちづくりを進めてまいります

近いうちに必ず発生すると言われている「南海トラフ巨大地震」など大災害への対策として、3月には防災マップを全戸配布、土山駅南に新たに設置した防災機能を持つ公園、各機関等との協定、河川監視カメラなど、順次対策を講じてきておりますが、本年度は野添地域の避難所ともなる蓮池小学校に「防災用備蓄倉庫」を設置いたします。また、AEDにつきましましては、これまで自治会に設置をお願いしてまいりましたが、新たに24時間利用可能な「コンビニ」へも設置を依頼してまいります。

水田川の改修工事は、県事業であります。住民の皆様へ安全・安心に直結する事業であり、本町もこれまで国・県など関係機関に要望を重ねております。昨年12月に県から地元に対して、新幹線上流部の実施計画案が示されたところであり、今後早期の完成に向けて積極的に働きかけてまいります。

子どもの健全な育成は、播磨町の明るい未来にとって欠かすことのできない要素であるということから、子育て支援を重点施策として位置づけしてきております。播磨町には2か所の子育て支援セ

休日
家族で時間を
旅すれば



を実施しているところでございますが、今後小学校給食施設の老朽化も懸念されるところであります。現状調査を行いながら、将来においての施設や配食のあり方など「方向性」を研究してまいります。

また、人口急増期に建築した学校施設の老朽化も進んでおり、毎年大規模改修を実施してきています。ここではございますが、本年度も各小・中学校において、校舎やプール、体育館などそれぞれ大規模改修を実施し、さらに快適で安全な教育環境の充実に努めてまいります。順次改修してきております学校園のトイレを美しく維持するために、専門業者による清掃を実施してまいります。

まち東部の宅地開発により大幅に増えている園児数に対応するため、播磨幼稚園の隣接地に取得いたしました土地に、本年度新

たに遊戯室を建設いたします。道路横断につきましては人員を配置し、園児の安全を確保してまいります。

播磨町立図書館において、本年度より「電子図書」のシステムを導入いたします。読書スタイルも多様化している現在、IT機器を使った読書にも対応してまいりたいと思っております。また、毎年実施しております「播磨町図書館を使った調べる学習コンクール」につきましても、毎回全国的にも高いレベルの作品が応募されており、利用者も多様化してまいりたいと思っております。また、毎年実施しております「播磨町図書館を使った調べる学習コンクール」につきましても、毎回全国的にも高いレベルの作品が応募されており、利用者も多様なニーズに添えてまいりたいと思っております。

毎年、4月昭和の日に、大中遺跡、野添北公園、野添であい公園一帯を使って多くの来場者を迎え開催しております「健康福祉フェア」、「緑化イベント」を、本年度より名称を改め「はりま風薫るフェスタ」として開催いたします。今年もさわやかな気候の中、大中遺跡公園一帯でいろいろな体験をしていただき、ふれあいの輪を広げていただければ幸いです。

今年3月に町民プール跡地に開設いたします新たなスポーツゾーン「うみえる広場」につきましては、幼児から高齢者までそれぞれの世代がそれぞれの楽しみ



年々、来場者も増え大きな広がりを見せております「大中遺跡まつり」は今年で26回目を迎えますが、雨天時等にも安全に利用していただくため、国・県の補助金も活用しながら、当該地の土壌改良を実施いたします。

播磨町の先覚者である「ジョセフ・ヒコ」の偉業を、子どもたちや町内外の多くの人々に知っていただくため、昨年度製作いたしましたアニメ版の映像を活用し、ふるさとへの「愛着」や「誇り」を醸成してまいります。



ンターがあり、親子同士の交流、ふれあい、育児知識の習得機会など大きな役割を果たしていますが、南部子育て支援センター隣接地を芝生広場として整備し、子どもたちが屋外でものびのびと安全に活動できるように配慮してまいります。

「不妊治療の助成」「こども手帳の配布」「赤ちゃんの駅設置」「中3までの医療費無料化」「保育園での一時保育、延長保育、病後児保育」「保育園・幼稚園保育料の多子世帯軽減」「ファミリーサポート事業」「予防接種事業」「未熟児養育事業」「養育支援事業」など、さまざまな子育て支援事業を実施しております。これらの事業の情報提供や支援など、生まれる前から義務教育終了まで、切れ目のない、途切れない支援を行うべく、「こども窓口」を設置いたします。子育て「コンシェルジュ」と保健師が常駐し、子ども子育て家庭を心身両面からのサポートを行い、子育てが安心して楽しくできるような環境を整えてまいります。また、妊婦への出産時の新たな支援として、「ここのとりたワシー事業」を実施します。

支援を行っていますが、これまでの項目に加えて、中学校での必須科目となった柔道着についても対象とし、保護者の負担軽減を図ってまいります。

また、学童保育につきましては、年々利用者が増加していることから、放課後の居場所づくりとして子どもたちに快適で安全な環境を提供するため、昨年度増築工事をいたしました播磨南小学校に第二学童を開設、蓮池小学校に第三学童を建設します。

「総合戦略」において播磨町の産業活性化は、「雇用」「税収」「定住人口」などにつながる重要な課題と位置付けておりますが、本年度に東新島、新島での緑化率の大幅な引き下げ、町内への移転企業に対する税制面での優遇措置、奨励金の交付など町独自の政策により企業誘致に努めてまいります。また、商工会が実施する推奨品の開発やイルミネーション事業などを支援してまいります。

住環境の向上と町内業者への支援として実施しております。住宅リフォームへの助成は多くの希望者があり、大きな経済効果も認められることから、さらに期間を延長して実施してまいります。

団塊の世代が後期高齢となる2025年頃には、医療・介護などでより多くのニーズが出てくる

目指してまいります。「こころふれあう町民のつどい」講演会や「共に生きようふれあいのまち」映画会、「いきいきフォーラム」啓発カレンダーなどにより、人権尊重のまちづくりを進めてまいります。

本年度も行政懇談会やタウンミーティングなどで対話の機会を多く持ち、いただいたご意見を参



考にし、町政に反映させてまいります。また、ホームページ、フェイスブック、町広報などで、きめ細かく行政情報を発信してまいります。

磨町紹介PR映像「産業紹介PR映像」「ポスター」などを活用し、子どもたちや住民の皆様へ「ふるさと」意識を深めていただき、さらには定住人口の増加にもつながってまいります。

ことが予測されます。認知症の早期診断・早期対応や地域密着型サービス・小規模多機能型居宅介護施設の整備などを行いながら、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に行われる「地域包括ケアシステム」を構築してまいります。

障がい者に対する雇用機会を創出するとともに、「自立支援協議会」を活用し、きめ細かい支援を行ってまいります。以前から要望をいただいております「ブループホーム」については、新設する設置者に対して補助を行い障がい者福祉の充実を図ります。

「福祉会館」「健康いきいきセンター」「福祉しあわせセンター」などの老朽化が進み、大規模な改修が必要となっております。施設の環境改善、延命化を図るため、本年度調査・設計などを行ってまいります。また、福祉会館の隣接地を取得し、駐車場整備や歩道の延伸を行い、利用者の安全と利便性を高めてまいります。

人や環境にやさしく、快適なまちづくりを進めてまいります

散歩やウォーキングなどで多くの方々に日々ご利用いただいている喜瀬川沿いの遊歩道ですが、播磨中学校南のこたま橋から山陽

また、女性の活躍を期待することからも、女性の就労機会を創造するため、近隣市町と連携しながら、国の交付金を活用して「フラウドソーシング体験プログラム」や「フラウドファンディング」などに取り組んでまいります。

健全な行政経営による持続可能なまちづくりを進めてまいります

交付が始まりました「個人番号カード」につきまして、播磨町では、既に約2千名の方々が申請を済ませられております。今後、このカードを利用することで、コンビニにおいて住民票や印鑑証明の取得が町の窓口よりも安価でできるようになります。また、水道・下水道料金に引き続き実施しております「税のコンビニ」収納につきまして、納税者の利便性が増し、収納率向上につながるものと考えています。

公共施設の老朽化対策や更新、新たなニーズへの対応として、「公施設等総合管理計画」を策定し、財源の借り入れ方針も変更しながら、将来にわたって持続可能な行政運営に努めてまいります。また、国の統一的な基準に基づく財務書類を作成するために必要なシステムを導入し、健全な財政運営を構築してまいります。

電鉄北側までの区間においても安全で快適な歩行ができるよう整備します。

播磨町では現在3つのため池協議会が結成されており、ため池を中心とした「ミニミニづくり」に取り組んでいただいております。大池周辺はもつすく、管理用通路やトイレ、駐車場等の工事が完了いたします。住民の方々が自然に親しむ水辺空間として健康増進や野鳥観察など、日常的にご利用いただければと考えています。また、通学路として小・中・高校生が利用している町道古宮川端線につきましても、地権者の同意が得られたことから改良工事を行い、通学路の安全を図ってまいります。

他のため池につきましては、本年度は古田の妹池改修を行い、野添のソウブチ池については水利組合、近隣自治会、行政など関係者による協議を行い、よりよい環境づくりへの方向性を見出しつつあります。

小学生などの交通指導に利用されてきた望海公園内の「交通公園」と新島先端にある「南緑地」につきましては、昨年度基本設計を行いました。今年度は詳細設計を行い、多世代や親子連れが楽しめる施設として整備してまいります。

本年4月、土山駅南の町有地に議場のマイク設備、第2庁舎の屋上防水など老朽化や経年劣化により、支障をきたすような状況が出てきていることから、機器の更新や改修工事などを行い、確実な行政運営に努めてまいります。本町は、昭和37年に町制を施行いたしました。平成29年度に町制施行55周年を迎えることから、本年度より準備を進めてまいります。

東播磨海広域行政協議会の2市2町が共同で進めている広域ごみ処理事業（可燃ごみ、粗大不燃ごみの処理）については、平成27年度より高砂市に事務委託していますが、平成34年度からの稼働に向けて協議を進めてまいります。本町としてもレジ袋の有料化協定を締結するなど、住民の皆さまにご協力をいただきながら、ごみ量の削減に取り組んでまいります。

以上所信について述べさせていただきました。以下、第4次播磨町総合計画に沿って、本年度の主要な事業について説明させていただきます。

つながりを大切にすまちなづくりを進めてまいります

播磨町人権・同和教育研究協議会や自治会と連携しながら、差別のない人権意識の高いまちを

オープンする商業施設「R・V・I土山」内に、町が設置する「交流スペース」は、交流、展示、発表など町域を越えて多彩な利用が期待できます。昨年度完成いたしました町紹介映像なども活用しながら、まちのPRに努めてまいります。長年、多くの住民の方々からご要望をいただいております「ミニミニバス」につきましては、播磨町地域公共交通会議でご審議いただき、運行方法、ルートなどほぼ方向が定まっております。今年度後半には実証運行を開始し、試行しながらよりよい運行形態を模索してまいりたいと思っております。

全国的な問題となっている「空き家」につきましては、昨年度実施した調査に基づき、「空き家等対策計画」を策定し、安全・安心の住環境を確保してまいります。

公共下水道事業につきましては、市街化調整区域の調査業務を行い、汚水の面的整備を進めてまいります。

播磨町人権・同和教育研究協議会や自治会と連携しながら、差別のない人権意識の高いまちを